

～校長通信～

# ふたばっ子とともに

R5. 11. 30

「夏の終わりはいつ？」と秋の気配を日々探している間に、一気に気温が下がり「もう冬？ 秋は？」と「？」だらけの季節感に惑わされた11月が終わります。

「実りの秋」と呼ばれる（今年は、あまり秋らしくありませんでしたが…）ように、11月は、教科学習はもちろん、修学旅行や校外学習、様々な講師をお招きしての活動など、子供たちが充実した学びを重ねて成長している姿が多く見られました。

今回は、そんな中から6年生が行った修学旅行（11/9、10）についてお伝えします。

## もう一度「一緒に旅をしたい」6年生

4年ぶりに目的地は「東京」でした。

1日目の見学地、活動場所は「国会議事堂」～「議員会館で昼食」～「浅草（グループごとに散策）」～「上野公園（上野動物園 or 国立科学博物館でグループ活動）」～「江戸風鈴の絵付け体験」～「東京スカイツリー（グループ活動）」～「夕食（カレーライス食べ放題）」でした。39名という小回りの利く良さを活かして、かなり欲張ったプログラムになりましたが、それでも子供たちは、自分たちが計画・準備した役割や流れを確かめながら、もめごとやトラブルなく旅行を楽しんでいました。

2日目の活動場所は、全員が心から楽しみにしていた「東京ディズニーランド」。幸運なことに「クリスマスファンタジー」のイベントが始まったばかりのパーク内は、大きなツリーやクリスマスカラーの装飾で彩られ、まさに「夢と魔法の国」にふさわしい雰囲気でした。

11時ごろから1時間ほど小雨に見舞われましたが、ここでもトラブルや迷子などは全くなく、時間いっぱいまでディズニーの世界を満喫しました。

今回は、当日の朝、浜松駅に集合するというので、出発式を11/8の前日に学校で行いました。駅構内や周辺のような雑踏ではなく、子供たちが落ち着いて話を聴ける状況であり、少し時間があったので、その出発式の中で、私は、次のような話をしました。

修学旅行が、いよいよ明日となりました。楽しみだよね。

みんなでいろいろと考えて、調べて、話し合っ、決めて…準備してきました。そうする中で、徐々に楽しみを膨らめてきました。

私も、5年生から今までみなさんが成長する姿を見てきて、また今年度は、みんなで力を合わせて、キッズチャレンジビジネスに一生懸命取り組む姿を見ていて「6年生と修学旅行に行くのは楽しみだな」と思ってきました。ただ、少し前までは…です。

最近のみなさんの様子を見てみると、心や頭の中に、少しずつ「本当に楽しみなのだろうか」という疑問が浮かんでくるようになりました。

それはなぜかという理由も含めて、順を追って話していきますね。

それから、みなさんももちろん分かっているように、修学旅行は、家族や友達と行く旅行とは違って「遊び」ではなく「学び」の場の一つです。だからこそ、できるだけよい「学び」につながるよう、これから話すのは、出発前にみんなで少し考えたいことでもあります。

まずは、この「修学旅行」…未来の何につながると思いますか。

今、それぞれの頭で思い浮かべたように、答えはいろいろとあるだろうけれど、その中の1つにこんな考えもあると思います。それは、将来、あなたが誰かと旅をするときに「一緒に行きたい人」になれるかどうか…ということです。

ここで質問です。あなたは、次の2つのタイプの人がいたら、どちらの人と「一緒に旅行へ行きたい」と考えますか。

①気配り、気遣いのできる人

②自分勝手、わがままな人

気配り  
気遣い

わがまま  
自分勝手

ここからは、この2つのタイプの人につなげてお話しします。



ここ数日のみんなを見ていると、「このままで修学旅行は楽しくなるかな?」「この様子でみんなが気持ちよく行ってこられるかな」と思うことがあるとありました。

1つ目は、一昨日の体育の時のこと。授業のスタートで、並ぶ場所の判断がまずかったのを覚えていますか。自分たちで「どうするのが良いのか」を誰も考えず、修正を求める声も出ず、係の人に言われるがままに動いていました。

また、終わりの挨拶をするときに、先生が集合を掛けると、すでに8割の人たちが集まっているのに、後ろの方で話しながらのんびりと歩いている女子2名、男子数名がいました。

さて、この2つの姿は、修学旅行を楽しくする要素でしょうか。その逆でしょうか。

2つ目は、みなさんの挨拶です。

私は、出張や会議でない限りは、みなさんが帰る時には、できるだけ校長室のブラインドをあげて窓を少し開けています。みなさんの「さようなら」の挨拶に、すぐに反応できるようにするためです。

東門や西門から帰る人たちもいるので、全員に当てはまるわけではありません。「南門から帰る6年生は、みんないつも元気よく挨拶していきます!」と言いたいところですが、そうではありません。毎日、変わらず挨拶してくれるのは、男女の限られた人です。あとの人たちは、その日の気分でしたり、しなかったり…。

さて、この姿は修学旅行を楽しくする要素でしょうか。その逆でしょうか。

私は、6年生の担任として7回、中学3年生の担任として1回、修学旅行の引率をしました。

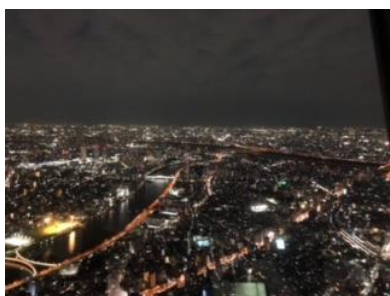
その度ごとに、クラスや学年の子たちに伝えてきたのは「東京や京都や奈良の駅や観光地で、先生が大きな声を出して指示をしないといけないような集団は、楽しい旅行ができるのか」ということでした。

先程の体育の時間の、自分たちで考えて並べない、みんなが並んでいても急がない。

これは、①気配り、気遣いのできる人 ②自分勝手、わがままな人  
さて、どちらの人でしょうか。

毎日の挨拶は、自分のその日の気分次第。

これは、①気配り、気遣いのできる人 ②自分勝手、わがままな人  
さて、どちらの人でしょうか。



少し考えてみてください。2日前の体育の時間に見られた姿は、東京へ行けば、変わるのでしょうか。いつもできていないけれど、修学旅行だからできると言えますか。場所が、学校ではなくディズニーランドなら大丈夫なのですか。朝、ホテルの朝食会場で会うあなたたちが、互いに挨拶を交わさなくて、気持ちの良い2日目が始まるのでしょうか。

これまでのあなたが、今のあなたたちが、明日修学旅行へ旅立つのです。明後日、修学旅行の2日間を過ごしたあなたが、あなたたちが、その後未来に向けての生活をスタートするのです。言い換えるならば、修学旅行は「これまでの自分を振り返る旅」であり、「これからの自分を見つめる旅」と言えます。

さあ、何を考えれば、どうすれば、この2日間があなたたちがめあてに掲げた「唯一無二の修学旅行」にできるのでしょうか。どのような2日間を過ごしてきたら、あなたたちの未来は、さらに明るく楽しいものになっていくのでしょうか。

「明日から修学旅行でウキウキ気分なのに、そんな話をするなよ」と思った人もいるかもしれませんが、でも、今のウキウキ気分を、本当に楽しい思いがあふれる時間に、楽しかった思い出にするためには、大切なことだと思うのでお話ししました。

さあ、東京には、あなたたちをより大きく育ててくれる、どんな「ひと・こと・もの」との出会いが待っているのでしょうか。今の話を少しだけ心と頭の隅にとめて、明日からの修学旅行に元気よく出発しましょう。

6年生が、この話をどう受け止めたかどうかは確かめてありません。

でも、修学旅行の2日間は、想像をはるかに超えた素晴らしい姿の6年生を見ることができました。

それは、小さくなって、かしこまって、ただ大人しくしているのではなく、互いに気配りと気遣いを意識しながら、心から学年のみんなとの旅行を楽しもうとしている積極的な姿でした。誰に言われなくても、静と動の場面を切り替えながら、自分たちの楽しむ時間に無駄を作らないようにと考え、声を掛け合って活動する姿を、どこに行っても見ることができました。

やわらかな声掛けと優しい笑顔があふれた2日間の修学旅行。この旅行を共にした私にとって、6年生は「もう一度一緒に旅をしたい39名」になりました。

6年生のみなさん。素敵な時間をありがとう。

修学旅行を終えた後、南門から下校する6年生は、それぞれに挨拶の声を響かせて、校長室前を通っていきます。その時の取組だけではなく、あの2日間を境に「成長した姿」を見せてくれる6年生の子供たちを、本当に誇りに思います。

今、6年生は、12/7(木)に遠鉄百貨店で「キッズチャレンジビジネス」の販売活動に向けて準備を進めています。この活動を通して、さらにどんな成長を見せてくれるのか、とても楽しみです。